

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 7 部門第 3 区分  
 【発行日】平成 27 年 9 月 24 日 (2015.9.24)

【公表番号】特表 2015-503254 (P2015-503254A)  
 【公表日】平成 27 年 1 月 29 日 (2015.1.29)  
 【年通号数】公開・登録公報 2015-006  
 【出願番号】特願 2014-535040 (P2014-535040)  
 【国際特許分類】

H 0 4 B 5/02 (2006.01)

H 0 1 Q 21/28 (2006.01)

H 0 1 Q 21/24 (2006.01)

【F I】

H 0 4 B 5/02

H 0 1 Q 21/28

H 0 1 Q 21/24

【手続補正書】

【提出日】平成 27 年 8 月 3 日 (2015.8.3)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 8 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 8 9】

同様に、受信動作については、非接触プラグコネクタ 2 0 0 の送受信回路は、第 2 のアンテナ部材 2 2 0 を介して第 2 の所定の搬送周波数 ( $f_2$ ) の電波を受信する。その後、送受信回路は受信された電波を復調し、その復調された電波をベースバンド出力信号として入出力部へ出力する。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 9 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 9 6】

任意の回転状態に固定された時に、非接触プラグコネクタ 2 0 0 が対応する相手コネクタへ電波を送信や対応する相手コネクタから電波を受信できるように、第 1 のアンテナ部材 2 1 0 と第 2 のアンテナ部材 2 2 0 は、円偏波を有する電波を送信や受信するように構成される。図 2 (B) に示される例示的具現化に従って、第 1 のアンテナ部材 2 1 0 は右回り円偏波の電波を送信や受信するように構成され、第 2 のアンテナ部材 2 2 0 は左回り円偏波の電波を受信や伝送するように構成される。特定のタイプの円偏波にもかかわらず、非接触プラグコネクタ 2 0 0 のアンテナ部材 2 1 0 又は 2 2 0 は、電磁接続を確立するために、相手プラグコネクタ 2 7 5 の対応するアンテナ部材 2 6 5 又は 2 7 0 の円偏波のタイプと同じであるタイプの円偏波を介して送信や受信するように構成される。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 0 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 0 2】

加えて、非接触プラグコネクタ3 0 0は、アンテナ部材 3 1 0 に接続される送受信回路と、ベースバンド入力信号の入力のため及びベースバンド出力信号の出力のための入出力部とを含むが、これらの送受信回路と入出力部は図 3 ( A ) 及び図 3 ( B ) には示されていない。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 2 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 2 0】

この実施形態では、第 1 のアンテナ部材 4 1 0 と第 2 のアンテナ部材 4 2 0 は非接触プラグコネクタ 4 0 0 の嵌合端内に印刷回路基板 4 0 5 の両側に取り付けられている。第 1 のアンテナ部材 4 1 0 と第 2 のアンテナ部材 4 2 0 の印刷回路基板 4 0 5 の両側への取付けを可能とする（即ち、2 個のアンテナ部材の各々に対して十分な空間を提供する）ために、印刷回路基板 4 0 5 を非接触プラグコネクタ 4 0 0 の外側遮蔽部材（即ち、図 1 ( A ) 及び図 1 ( B ) の部材 1 4 5 ）や封止部材（即ち、図 1 ( A ) 及び図 1 ( B ) の部材 1 5 0 ）に直接接触するように配置することは不可能である。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 3 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 3 5】

任意に回転された状態で固定される時、非接触プラグコネクタ 4 0 0 が電波を対応する相手コネクタへ送信することや電波を対応する相手コネクタから受信することができるために、第 1 のアンテナ部材 4 1 0 と第 2 のアンテナ部材 4 2 0 は、円偏波を有する電波を送信や受信するように構成される。図 4 ( B ) 及び図 4 ( D ) に示される例示的具現化に従って、第 1 のアンテナ部材 4 1 0 は右回り円偏波の電波を送信や受信するように構成され、且つ第 2 のアンテナ部材 4 2 0 は左回り円偏波の電波を受信や伝送するように構成される。特定のタイプの円偏波にもかかわらず、非接触プラグコネクタ 4 0 0 のアンテナ部材 4 1 0 又は 4 2 0 は、電磁接続を確立するために、相手プラグコネクタ 4 7 5 の対応するアンテナ部材 4 6 5 又は 4 7 0 の円偏波のタイプと同じタイプの円偏波を介して送信や受信するように構成される。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 5 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 5 1】

任意の回転状態に固定された時に、非接触プラグコネクタ 5 0 0 が対応する相手コネクタへ電波を送信することや非接触プラグコネクタ 5 0 0 が対応する相手コネクタから電波を受信することができるように、第 1 のアンテナ部材 5 1 0 と第 2 のアンテナ部材 5 2 0 は円偏波を有する電波の送信や円偏波を有する電波の受信をするように構成される。例示的具現化に従って、第 1 のアンテナ部材 5 1 0 は右回り円偏波の電波を送信や受信するように構成され、第 2 のアンテナ部材 5 2 0 は左回り円偏波の電波を受信や送信するように構成される。特定のタイプの円偏波にもかかわらず、非接触プラグコネクタ 5 0 0 のアンテナ部材 5 1 0 又は 5 2 0 は、電磁接続を確立するために、相手プラグコネクタ 5 6 0 の対応するアンテナ部材 5 6 5 又は 5 7 0 の円偏波のタイプと同じであるタイプの円偏波を介して送信や受信するように構成される。